

平成30年6月1日現在

機関番号：17101

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2017

課題番号：15K02250

研究課題名(和文) 太平洋戦争後の戦後文学に描かれたタイ表象の分析研究

研究課題名(英文) Analysis of Thailand's representation in Postwar Literature written after the Pacific War

研究代表者

久保田 裕子 (Kubota, Yuko)

福岡教育大学・教育学部・教授

研究者番号：30262356

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,500,000円

研究成果の概要(和文)：本研究において、日本近代文学において描かれてきたタイ文化表象について分析するために、日本とタイの図書館において資料収集を行った。調査結果を基盤として、日タイ関係の歴史を通時的にたどり、太平洋戦争期、1960年代以後の高度経済成長期、1980年代以降のツーリズムの時代の中で、太平洋戦争後の戦後文学の作品に描かれたタイ表象について、構築と流通の過程を明らかにした。研究成果を日本・タイの国際シンポジウム・学会・共編著・学術雑誌を通して発表した。

研究成果の概要(英文)：In this study, in order to analyze how Thai culture is depicted in modern Japanese literature, data at libraries in Japan and Thailand were collected. The historical relationship between Japan and Thailand was examined in diachronic fashion, which revealed the process of construction and distribution related to the depiction of Thailand in works written during the Pacific War, namely, during the period of high economic growth from the 1960s onward and in the age of tourism that started in the 1980s. The findings of this study were presented during Thai-Japanese co-hosted international symposiums, conferences, co-authored publications, and academic journals.

研究分野：人文学

キーワード：戦後文学 タイ国 日本近代文学 国際情報交換 国際研究者交流 三島由紀夫

## 1. 研究開始当初の背景

(1) 国際的なポスト・コロニアル研究が日本近代文学研究に与えた影響は、比較文学研究、地域研究、文化研究などの複数領域を横断する課題である。日本近代文学研究の領域において、1990年代以降、文学テキストが異文化をいかに表象してきたかという問題が再検討されるようになった。

(2) 1990年代以降の南洋領域を対象とした文学・文化研究の成果として、日本の旧植民地の南洋地域の分析研究が行われ、東南アジア地域を分析対象とした研究動向が見られるようになった。従来の日本近代文学研究においては、作家自身の海外体験に基づき、日本と歴史的関連性の深い東アジア地域について、渡航した文学者・文化人による異文化表象の軌跡をたどる研究が蓄積され、南方徴用作家が描いた作品を対象とした研究が行われてきた。近年、『文化人の見た近代アジア』全24巻(ゆまに書房、2002)などの復刻資料も刊行され、南洋地域を対象とした文学研究の基盤が整備されつつある。

(3) 明治期以降、日本とタイは共に皇室・王室を中心化して近代化を目指すアジアの国家という共通点を持ち、小説、評論、旅行記、教科書、新聞・雑誌記事など、さまざまな日本語テキストや映画、写真、絵画などの視覚メディアの中で表象されてきた。しかし表象分析研究が蓄積されつつある東アジア地域に比べ、タイに関する分析研究は未だ十分ではないという状況が見られた。

## 2. 研究の目的

(1) 本研究においては、戦後文学の中で描かれた異文化表象を考察す

る上で、太平洋戦争以前に、日本と同盟関係にありながら「タイ(泰)・仏印」と呼称され、地政学的に「大東亜共栄圏」として組み込まれてきたタイを舞台にしたテキストを分析対象とする。これまでの研究成果を踏まえ、本研究において、タイをめぐるイメージ変容の原点を探り、それが両国の歴史的関係性の中でどのように変容し、表象されたかという経緯について考察することを目的とした。国家の関係性が、さまざまな領域の文字テキストや映像表現に反映され、さまざまな文化表象が生み出されてきた。研究代表者は本研究を開始する以前から、タイで現地踏査や資料調査を行ってきたので、本研究においても資料調査を継続することを目的とした。

(2) 日本近代文学において描かれてきたタイの表象について、両国の歴史的コンテキストと関連させつつ分析する。日タイ関係の歴史を通時的にたどり、太平洋戦争期の「大東亜共栄圏」時代、1960年代以後の高度経済成長期、1980年代以降のツーリズムの時代の中で、特に太平洋戦争後の戦後文学の作品に描かれたタイ文化表象について、構築と流通の過程について明らかにすることを目的とした。

## 3. 研究の方法

(1) 国会図書館などにおいて、タイの歴史と文化を背景に描いた日本近代文学テキストを網羅的に調査・収集し、表象分析の基盤となる資料収集作業を行った。その成果を基盤として、太平洋戦争戦後の戦後文学に描かれたタイの文化表象について分析した。

(2) タイ国内で刊行された日本語資料について、タイ国ナショナル・

ライブラリー、タイ国公文書館、チュラーロンコーン大学図書館などにおける資料調査を継続した。タイで刊行された日本語の図書・雑誌について、1960年代から「泰国日本人会」により刊行された「クルンテープ」、「バンコク週報」などの雑誌・新聞が刊行されたことを確認した。また「シャム国日本人会会報」はタイ国内において刊行され、タイ政治情勢、日タイ関係をめぐる国際情勢の他、旅行記、日常生活の記述が見られることを確認した。

(3) 戦後文学 に描かれたタイ表象が、同時代言説をどのように反映し、独自のイメージが構築され、流布されたかという経緯について考察し、タイ文化表象のさまざまな位相について明らかにした。調査・収集した小説、旅行記などのテキストと日本・タイで刊行された日本語の同時代言説の資料を照合・分析した。それらのテキストについて、観光小説、バックパッカー小説といった視点から、トラベル・ライティングの系譜に連なる作品として位置付けた。タイについて言及した日本語雑誌・図書から、時代ごとの社会・文化をめぐる言説を抽出し、小説・紀行文・ルポルタージュなどのテキストと比較・照合することでタイ表象が構築された経緯をたどり、その歴史的意味について分析した。

#### 4. 研究成果

(1) タイの人と社会を描いた昭和10年代から現在に至るまでの日本文学テキストや同時代資料を調査・収集した。調査結果に基づき、共著書の刊行、論文の執筆及び国内外の国際学会発

表等に役立てることができた。

(2) タイに関連する日本近代文学に関するテキストについての分析・考察を行った。特に三島由紀夫については、アジア地域(タイ・ラオス・カンボジア)を舞台とした小説やエッセイを執筆しているが、従来の研究において、あまり言及されることはなかった。調査結果をふまえ、アジアという新たな視点から三島研究を行うことができた。

(3) 研究代表者は(1)~(2)の成果を基盤として、日本とタイ及び東南アジアの歴史・文化交流を背景とした作品について考察した。その成果を日本・タイ両国において公表した。またタイ人研究協力者と国際共同研究を行い、その成果を国際学会において発表した。

(4) 市民や日本文学を海外で学ぶ学生を対象にした講演会を実施し、本研究成果をタイ・日本在住の市民や日本近代文学を学ぶ日タイの学生を対象として公表し、両国の国際学術文化交流にも寄与することができた。なお現時点で公表した本研究についての研究成果の主な内容は、以下の通りである。

「国際三島由紀夫シンポジウム2015」を開催(2015年11月14・15日、東京大学駒場キャンパス、11月22日、青山学院大学アスタジオ)を開催した。国内からは、文学・文化研究の研究者の他、舞台演出家、写真家、音楽関係研究者、ラカン研究者なども参加して、多角的視点から三島由紀夫の文学についての議論を行った。海外(アメリカ、ドイツ、フランス)事情によりビデオ参加、韓

国)の研究者も参加し、三島研究の国際的な受容状況が明らかになり、海外における日本文学研究の現況について、複数の研究領域における国際交流を行うことができた。シンポジウムの成果は、『抵抗と抗戦 三島由紀夫と日本、そして世界』(井上隆史・久保田裕子・田尻芳樹・山中剛史・福田大輔編、水声社、2016)を編著者として刊行した。

共編著『21世紀の三島由紀夫』(有元伸子・久保田裕子編、翰林書房、2015)を刊行した。本書は本研究の研究課題に関わる戦後文学を代表する三島由紀夫について多角的視点から論じ、さまざまな専門分野の日本文学研究者や演劇関係者にも寄稿して頂いた。総合芸術という視点から三島の文学を再考する上で成果を残すことができた。

学会発表以外に、「福岡県高等学校国語部会」で高等学校教員を対象に講演を行った。本研究の研究成果の知見を高等学校教育現場に還元した。

本研究の研究協力者である、タイ人研究者2名(チュラーロンコーン大学のナムティップ・メータセート、チェンマイ大学のタナポーン・トリラッサクルチャイ)と共に、2017年度日本近代文学会国際研究集会「日本近代文学のインターセクション」におけるパネル発表「タイからのまなざし/タイへのまなざし - 日本近代文学をめぐる受容状況」(11月26日、立教大学)において、日本側とタイ側の双方向的な視点から、国際情報交換を行い、国際共同研究の成果を報告した。

「第1回三島由紀夫アダプテーション研究会」(3月17日、広島大学

東千田キャンパス)において、企画に参画し、当日は司会、ディスカッサントを担当した。

福岡市文学館企画「上野英信展 上野英信・若き日の軌跡」関連企画川原一之講演会「私は神ではない、怨霊だ」(2017年12月9日)において、本研究にかかわる戦後文化とアジアとの問題についての講演会を、福岡市総合図書館・文学館(福岡市教育委員会)との共催で運営し、地方自治体との社会教育に参画した。また福岡教育大学大学院生、学部生も当日の会場設営協力として参加し、研究と大学教育との連携をはかった。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計7件)

久保田裕子、戦争の中の観光 - 松本清張『象の白い脚』 - 、昭和文学研究、査読有、第75集、2017、pp.70-82

久保田裕子、三島由紀夫と松本清張の描いたアジア 文壇から海外へ向かった日本文学、北九州国文、査読有、第44号、2017、pp.7-16

久保田裕子、「ヤングレディ」の旅 - 松本清張『殺人行おくのほそ道』、松本清張研究、査読有、第18号、2017、pp.66-81

久保田裕子、引揚げの記憶を表象/隠蔽すること 松本清張「赤いくじ」論、松本清張研究、査読有、第17号、2016、pp.63-76

久保田裕子、三島由紀夫「復讐」を読む、日本文学、査読有、65

巻9号、2016、pp.64-67

久保田裕子、三島由紀夫「月」論  
雑誌「世界」とビート・ジェネ  
レーション、三島由紀夫研究 三  
島由紀夫短篇小説、査読有、通巻  
、2015、pp.26-34

久保田裕子、二人の女性俳人の肖  
像 「菊枕」と「花衣」、松本  
清張研究、査読有、第15号、2015、  
pp.66-79

[学会発表](計12件)

久保田裕子、三島由紀夫研究から  
考える アジアから見た日本近  
代文学研究の現在、平成29年  
度 福岡教育大学大学院教育学  
研究科国語教育領域修士論文発  
表会 教員特別研究発表、2018  
年3月3日

久保田裕子、日本近代文学の中の  
タイ表象、日本近代文学会国際研  
究集会「日本近代文学のインター  
セクション」パネル発表「タイか  
らのまなざし/タイへのまなざ  
し - 日本近代文学をめぐる受容  
状況」、2017年11月26日

ナムティップ・メータセート、タ  
イにおける芥川文学の受容とア  
ダプテーション、日本近代文学会  
国際研究集会「日本近代文学のイ  
ンターセクション」パネル発表  
「タイからのまなざし/タイへ  
のまなざし - 日本近代文学をめ  
ぐる受容状況」、2017年11月26  
日

タナポーン・トリラッサクルチャ  
イ、タイで刊行された月刊誌「サ  
ンコムサート・パリタット(社会  
科学評論)」における日本文学の  
翻訳、日本近代文学会国際研究集

会「日本近代文学のインターセク  
ション」パネル発表「タイからの  
まなざし/タイへのまなざし -  
日本近代文学をめぐる受容状  
況」、2017年11月26日

久保田裕子、国語教科書の中の現  
代女性文学、福岡県高等学校国語  
部会総会 記念講演、2017年6  
月30日

久保田裕子、松本清張『象の白い  
脚』 戦後文学 における歴史  
の記憶、2016年度日本近代文学  
会九州支部春季大会、長崎県立大  
学シーボルト校、2016年6月18  
日

久保田裕子、三島由紀夫と松本清  
張の描いたアジア 国際的視点  
から日本文学を見る、福岡県高等  
学校国語部会(北九州地区部会)、  
2016年5月19日

久保田裕子、『豊饒の海』に描か  
れたアジアをめぐる表象、国際三  
島由紀夫シンポジウム2015、  
セッション 21世紀に三島文  
学を読む、2015年11月15日

久保田裕子、[基調報告]三島由  
紀夫研究から考える (ポスト)  
/コロニアリズムとアジアから  
見た日本文学研究の現在、第  
53回広島近代文学研究会、特集  
三島由紀夫研究の現在、2015年  
10月3日

久保田裕子、戦後文学 はタイ  
をどのように描いてきたか、シ  
ンポジウム 大鳥圭介の『暹羅  
紀行』(1875)から広がる140  
年 大鳥圭介の『暹羅紀行』  
(1875)から広がる新地平、チ  
ュラーロンコーン大学文学部東  
洋言語学科 日本語講座・大阪

大学文学部比較文学専修主催・  
大阪大学 ASEAN センター協賛、  
2015 年 9 月 4 日  
久保田裕子、日本の近現代文学は  
タイをどのように描いてきたか  
村上春樹「タイランド」を中心  
に、チュラーロンコーン大学文  
学部東洋言語学科日本語講座講  
演、2015 年 9 月 7 日  
久保田裕子、『象の白い脚』 松  
本清張の 駐在員小説、松本  
清張記念館・清張サロン特別講演  
会、2015 年 6 月 19 日

〔図書〕(計 4 件)

久保田裕子 他、めるくまーる、  
大庭みな子 響き合う言葉、2017、  
164-185、354  
ナムティップ・メータセート 他、  
勉強出版、男色を描く 西鶴の  
BL コミカライズとアジアの 性、  
2017、224  
久保田裕子 他、水声社、挑戦と  
抗戦 三島由紀夫シンポジウム、  
2016、243-253、462  
久保田裕子 他、翰林書房、21  
世紀の三島由紀夫、2015、178-188、  
326

6. 研究組織

(1) 研究代表者

久保田裕子 (KUBOTA, Yuko)  
福岡教育大学・教育学部・教授  
研究者番号：30262356

(2) 研究分担者 なし

(3) 連携研究者 なし

(4) 研究協力者

ナムティップ・メータセート  
(Namthip, METHASATE)  
チュラーロンコーン大学・  
文学部・准教授  
タナポーン・トリラツサクルチャイ  
(Thanabhorn, TREERATSAKULCHAI)  
チェンマイ大学・人文学部・講師